

開発の背景

分散コンピューティングの隆盛

- ・インターネットの普及により、一般ユーザのPCの空き時間を利用した分散コンピューティングのプロジェクトが活発化
- ・計算テーマは学術研究目的が主
- ・参加者はワーカPCとして処理能力を提供するのみ

もっと多くの一般ユーザが直接恩恵に与る形で分散コンピューティング技術を利用・普及させることはできないか？

個人投資家の増加

- ・システムトレード等の広まりによる、株式情報のデータ分析のニーズの高まり
- ・データ分析には大量計算が必要(例えばシステムトレードにおける戦略やパラメータの組合せは無数)
- ・銘柄別に計算する等、分散処理が容易な計算が主

分散処理のし易さを利用して、個人レベルでデータ分析を現状よりも早く大量に行うことができないか？



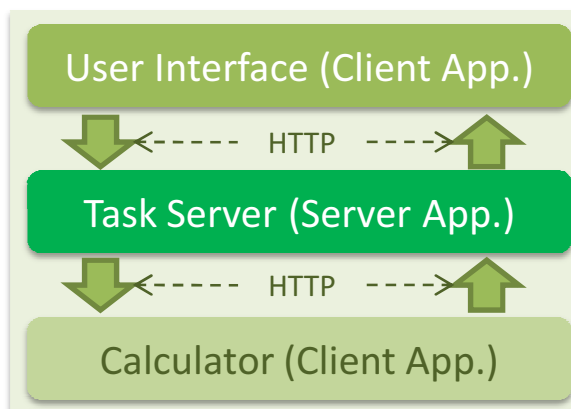
分散コンピューティング技術を株価分析に適用することで、技術の応用の裾野を広げることができないか？

開発成果1：Web分散コンピューティング基盤の開発

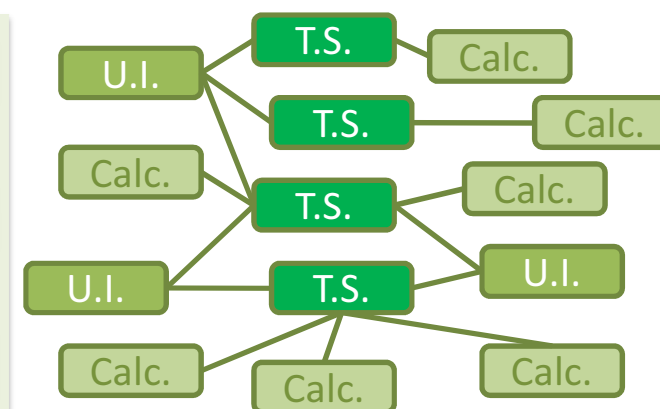
- ・インターネットを介し、参加者が互いに対等な立場で分散コンピューティングを行うための基盤アプリケーション「Lycaon」を開発



【Application Components】



【Web Distributed Computing Network (Image)】



開発成果2：株価分析ソフトの開発

- ・「Lycaon」を用いて分散コンピューティングを行う株価分析ソフト「System Trade Elixir」を開発



【「System Trade Elixir」画面】



効果/今後の展望

- ・一般ユーザが低コストで分散コンピューティングが生み出す計算能力を自己利用可
- ・今後Web分散コンピューティング基盤をフレームワーク化していくことにより、手軽に本分散コンピューティングの仕組みを利用できる開発環境を提供
- ・本分散コンピューティングを用いたソフトウェアが一般ユーザに普及し、余剰計算能力が生まれた場合は計算ソリューションサービスへの展開が期待

